

## 7 . 2 0 0 3 年度の業績見通し

当社の業績は2期連続の構造改革の痛みを経て、第2四半期においてほぼ2年ぶりに前年同期比で増収となるなど底入れの兆しを見せております。一方、IT産業を取り巻く市場環境につきましても、テクノロジーの進化により高性能・軽量化・低価格を実現したデジタルカメラ、DVD、カメラ付き携帯電話などのデジタルAV関連機器の需要の伸びが今後とも期待され、これに伴いサーバ・ファイルなどを中心とした高度なブロードバンド・ネットワークインフラへの需要も確実に増加することが予想されます。

現時点ではイラク情勢や株式市況など不安定な要素もありますが、下期に向けての景況の上向きが期待できる状況にあります。一方で、急速なグローバル化とテクノロジーの進歩は、ソフトウェア・サービスからハードウェアまで、低価格化への圧力を一気に加速させております。当社自身がグローバル化し、強いテクノロジーを保持し、ものづくりへの取り組みを強化、コストダウン・費用の効率化など事業構造のさらなる効率化に取り組む必要があります。この大きな変化に対して、当社は何よりも「お客様起点」、「スピード」を第一に取り組んでまいります。

当年度の通期の業績につきましては、売上高はリース事業会社の持分法への移行による影響により500億円減額となります。営業利益については、ソフト・サービスでは採算性悪化の影響で、年初の計画に届かない見込みですが、これをプラットフォーム、電子デバイスの伸長でカバーし、通期では年初の計画通りといたします。経常利益、当期利益は年初の計画通りです。

尚、第3四半期の損益見込みは以下の通りです。当社は期末に集中するビジネス構造ではありますが、第2四半期より1,000億円ほど売上の少ない第3四半期においても、営業利益の黒字化を達成し、今後の安定的な経営への道筋に繋げてまいりたいと計画しております。

### < 通 期 ( 連結 ) >

	2003年度 (予想)	7月公表比	2002年度 (実績)
売上高	47,500	▲ 500	46,175
営業利益	1,500	-	1,004
経常利益	600	-	123
当期純利益	300	-	▲ 1,220

### < 四半期別 ( 連結 ) >

	第1四半期 (実績)	第2四半期 (実績)	第3四半期 (予想)	第4四半期 (予想)
売上高	9,387	12,031	11,000	15,080
営業利益	▲ 378	198	50	1,629

上記見通しには、主要市場における製品・部品の需給動向（日本および欧米など）、為替相場、日米の株式市場などに不透明な面があり、実際の業績は見通しと異なる場合がありえることをご承知おき願います。